

# 東白の松風

公立学校退職校長会東白川支部

発行責任者 古 張 金 一

◆創 刊 平成2年8月1日

## 【巻頭言】 「教員が足りない」

副支部長 藤 田 充



退職校長会の会員の皆様には、益々ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて、現在、鮫川村でお世話になっておりますが、近年の学校教育について気になること、年を追うごとに顕著になってきていると感じていることがあります。それは教員不足という問題です。

令和7年10月24日（金）の読売新聞社説に『教員の勤務時間、学校の働き方改革は道半ばだ』が掲載されました。最後に、「過重労働が敬遠されて、教員のなり手不足は深刻な状況だ。待遇や労働環境の改善は、現場に優秀な人材を呼び込み、教育の質を高めることにもつながるだろう。」と結ばれていました。また、同じころ、高知県では、令和7年度の小学校教師の採用試験で採用見込みを拡大していたものの、合格者の約6割が辞退したとの報道がありました。辞退の理由は他県との併願者が多く"本命"の県に合格者が流れたのだらうと分析し、県教委は12月に小学校教師の追加募集を行うとのことでした。

本県の状況はといえば、小学校では、300人の応募をしたものの、競争率は1.1倍であったという報道がありました。合格者はどの程度で、辞退者があったのかどうか気になるところですが、県内で教員が充足していない学校が多数あると聞きます。とにかく、全国的にも教員不足が進行していることには間違いありません。

学校は追い込まれているなあと身近に感じています。私は、退職後、干支が一巡した年代ですから、今の学校は、学校環境は相当改善されたものの、内容の変化には、隔世の感があります。IT社会が職員室にも、授業にも押し寄せ、どこの教室にも電子黒板があり、子どもたちはタブレットを駆使しております。教員は私たちの時代には考えられない感覚で教鞭を取っているものと思います。さらに、いじめや不登校が絶えない一方で、保護者や地域住民の対応について大きな負荷がかかっていると言われています。そして、教員が足りないのです。

どうすれば教員が魅力的な職業となるのか、なぜ魅力的な教員が少なくなったと言われるのか、教員を管理監督する身としては常に対峙しなければならない課題ではありますが、任用に関しては只々傍観するのみです。

## <令和7年度退職校長会・現職校長会教育懇談会>

8月1日（金） 新 富 家

現職校長11名、退職校長22名、合計33名の出席者のもとに行われました。

東白川郡校長協議会の川上一美会長の挨拶に続き、退職校長会東白川支部の古張金一支部長の挨拶がありました。現職校長、退職校長それぞれの自己紹介、概要説明があり、荒川文雄棚倉町教育長の乾杯の発声の後、お酒を酌み交わしながらの懇談に入りました。

それぞれの情報を交換し合うなど、大変有意義な会になりました。



## ～学校紹介～ 「修明高校の今」

福島県立修明高等学校長 阿部 拓広



本校は、平成21年(2009年)に、棚倉町内の伝統校である棚倉高等学校と東白川農商高等学校を統合して修明高等学校として新たに開校し、令和7年には創立17年目を迎えました。

近年の県立高校再編計画が進行している中で、統合高校としては最初に開校した高校でもあります。

3つの大学科を持つ本校は、少子化の進行や近隣の県立高校の統合の影響により、統合後にも再編の動きがありました。

統合時は文理科2学級、農業科2学級、商業科2学級の6学級の生徒募集から始まりましたが、現在は文理探究科1学級、農業科3学級(生産流通科、食品科学科、地域資源科)、商業科1学級(情報ビジネス科)の5学級の生徒募集となっております。学級数は統合時から1学級減となっておりますが、修明高校入学者がそろった平成23年の生徒在籍599名から令和7年には335名と激減している状況です。

近年は各学科の専門教育について、教員からの詰め込み型から資質・能力の育成をいわゆる三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」として、学習や実習、実践を地域の方や地域のヒトに求めることが増えてきております。例えば、文理探究科の柱となる総合的な探究の時間の地域課題探究や農業科の修明笑ッポ(販売所)などでの農業生産・加工品の販売実習、花いっぱい活動、天狗山の植物保全活動等、商業科の修明笑店の開店、地域商店の商品開発など全ての学科において、この東白川地域でなければ成り立たない大切な学びを展開しております。

修明高校の生徒の進路は就職、進学さまざまありますが、地域に根差した本校での学びにより、時代や地域を超えた普遍的な価値観の形成とともに、地域の未来を担う人材の育成をこれからも続けてまいります。引き続き地域の皆様の御支援と御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



&lt;棚倉幼稚園との落花生交流&gt;



&lt;ヨークベニマル前での修明笑店&gt;

## ～お帰りのさい～ 「啐啄同時～キャリア教育の基盤～」



棚倉町立棚倉小学校長 齋藤 雅彦

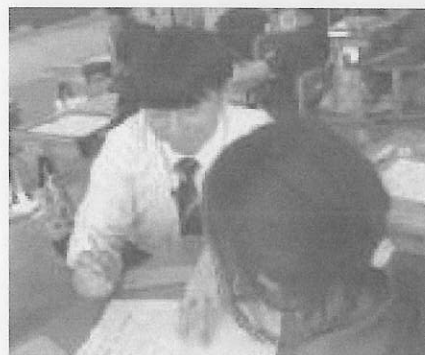
棚倉小学校を卒業して44年。4月から母校に勤務して、はや半年が過ぎました。

毎日の学習の中で、運動会や音楽会などの行事の中で、キャリア教育の基本である児童自身の見通しと振り返りを大切にしています。学校生活のいろいろな場面で、児童の発言や行動への価値付け、人間関係や教科を超えた学習のつながり、自分の考えや思いを進んで話すことなどが教職員にも児童にも意識され、日々の教育活動が進んでいきます。これらの取り組みを通して、子どもたちに学ぶ意義を自覚させていきたいと考えています。

キャリア発達を促す働きかけの一つに、キャリア・カウンセリングがあります。「がんばったね。いいことあったね。」「うまくいかなかったけれど大丈夫。この頑張りが次につながるよ。」授業で、学年集会で、教師からのそんな言葉かけがたくさん聞かれます。

校長室に掲げてある書には、「啐啄同時」と書かれています。啐は卵の中のひなが孵化して卵をつつくこと、啄は親鳥が殻を破ること。親鳥が殻を破るタイミングが早くても遅くても、雛鳥は生きることができません。教育の場では、教師が児童の内なる力を引き出し、伸びようとするその瞬間に気づき、支援することに例えられます。

私たちが日々行っているキャリア・カウンセリングも「啐啄」のように、子どもたちが伸びようとする時を見逃さずに後押しする声をかけ、前向きに生きようとする子どもたちを育てていきたいと考えています。



## ～研修旅行報告～「晩秋の常陸路へ ～焼き物の旅～」 伊藤 弘行

11月9日、水郡線と常磐線乗り継いで、初めての列車を使った研修旅行に行ってきました。列車は朝7時13分に棚倉駅を出発し、駅々で参加者13名を乗せ、一路友部駅を目指しました。

当日は、あいにくの雨でしたが、久慈川に沿って走る列車の車窓から、晴れていたらおそらく美しいであろう紅葉を想像しながら列車の旅を楽しみました。

まず向かったのは、茨城県陶芸美術館です。美術館では常設展の他に特別展が開催されており、陶芸作家の田崎太郎氏本人にもお会いし、お話することができました。

美術館内のレストランで常陸の秋の味覚を堪能した後、『かさま工芸の丘』に移動し、皿に思い思いの絵や文字をかきました。旅のよい記念として、作品の完成が楽しみです。



昭和12年11月10日生



## 園芸クラブ副部長 萩原 照 夫

原稿の執筆、大変ありがとうございました。  
季節の移り変わりが早いもので、もう年末を  
迎えました。来年の干支は午(うま)です。ぜひ  
躍動の年にしたいものですね。(西牧・吉田)